

JCF 全日本シクロクロス選手権 2014 レースレポート

パナソニックレディース 豊岡英子



日時：2014年12月14日

場所：宮城県仙台市 SUGO モトクロスサーキット

天候：晴れ・雪

結果：1位	豊岡英子 (パナソニックレディース)	41'02
2位	宮内佐希子 (Team Chainring)	+35'
3位	武田和佳 (Team Chainring)	+5'09

UCI 野辺山が終わり、全日本まで2週間となった。

それまでに何が出来るか？

野辺山での反省点を考えるとしたら、ウエイトコントロールであった。

仙台入りし、土曜日の試走では、とても身体が軽く感じた。

体重計の針は、野辺山から-3.5キロであった。

そして、トレーナー、安藤コーチとの調整も、この上なくしっかりとできていた。

後は自分を信じて走ればいい。

とてもワクワクした気持ちで当日を迎えた。



コースは、モトクロスコースを使用し、スタートループからオンロードに入り、シケインを越え、キャンパー、第1ピット、激坂、こぶ区間、1周 2.7 km 高低差 28m で、常に上るか下るか、というコースレイアウト。

レース当日、寒波により試走段階で路面はアイスバーン状態。

路面は、解けるであろうし、コンディションも変わると解っていたが、試走を入念に行った。

レース前日の夜も、布団の中で 100 回以上はコースレイアウトを頭の中で考えていた。

とにかく、落ち着いて走らなければ命取りになる。

師匠である辻浦圭一氏に、何度も電話と路面の写真を送りアドバイスを貰う。

レーススタート前、やはり凍っていた路面は解け始めているが、影になっている部分に氷が残っているので、非常に難しいコンディションになるだろうと思った。

タイヤ選択を、GRIFO から LIMUS に変更し、空気圧も 1.5 から 1.3 に落とした。

自転車も 3 台体制で挑んだ。

スタートラインに着くが、SUGO サーキット特有の、凄まじい泥がシューズにまとわりついて大変な状態であった。

10 : 10 定刻通りにスタートした。

オンロードに入った時、宮内選手が前にいたが、抜いてシケインを先頭で入る。
難しいキャンバーを下り、少し後続と差が開いた。
自転車は、半周で交換した。



無難に1周回が終わり、2周回めのキャンバーで、宮内選手が追いついてきた。
しかし、全く焦りはなく、半周でまたもやピットに入り自転車を交換した。
長い激坂を越え、こぶ区間で宮内選手の後ろに付く。
しかし遅いと感じ、ラインを変え抜き去り、先行で上り返しに入った。
上りをダッシュし、すぐ下り、目をつぶりたくなる様な、解け始めている深い轍から目線を上げ、タイヤを轍にはめながら走行。
そして、またダッシュして上りをクリア。

すると、さっきまで感じていた後ろの気配が、無くなるのを感じた。
下りに入り、トンネルをくぐり、激坂に入る時に 40 秒差がついた事を知る。
気温が低いため、凍りながらも解けた泥がタイヤにまとわり付き、ブレーキが壊れたのではないかという位に、自転車が重くなっていった。
これはまるで、2013 年度の世界選手権アメリカ、ルイビルと似た感じだ。
こうなると、自転車を交換しまくらないと終了する。
第 1 ピットは、4 周回中 3 回入り自転車を交換。
第 2 ピットは、上りの途中にあるので、できるだけ入りたくないが、これまた 4 周回中 3 回入る事になる。
3 周回めは、ピットの入り口を間違え、上まで上がるも、ピットに入れて無いことを知り、ランで下り、ピットに入り、もう 1 度ランで上り、自転車を交換した。
体重を落としておいて良かったと思った。
アナウンスの声で、2 番手の宮内選手とかなりタイム差が開いたので、落ち着いて色々な事を判断でき、臨機応変に対応できた。
最終周回に入り、より丁寧に慎重に走った。
最後まで第 2 ピットに入り、自転車を交換してからゴールへと向かった。



ここまでの苦しかった事や、辛かったことや、沢山の方々の顔が浮かび、感極まる。
4 月の時点では左手を上には上げる事すらできなかった。
しかし、その両腕を頭上に掲げ、ガッツポーズをしながら 1 番でゴールラインを越えた。

2年間、どうしても全日本選手権だけ自分の走りができずに、もうチャンピオンになるのは無理なんじゃないか、自分はなんて弱いのだ、なぜ本番で力が出せないのか、自分は何でこんなに甘いのだと悩んだ。

長い2年間と、半年で3回もの手術。

骨を折った左肘のしんどくて、痛くて、きついろハビリ。

そして、トレーニングに費やした時間、目標を失いかけていた自分自身、その全てを帳消しにできた全日本選手権であった。

ゴール後、報道陣の前で号泣していると、その報道の方々も涙を流していたのには驚いた。

苦しかった今シーズン、自分自身を変える事ができた神々しい日となった。

復活にむけて応援してくれた皆様に感謝しております。

使用機材

自転車 PANASONIC

ヘルメット KABUTO

ステム DIXNA

フォーク ONEBYESU

ハンドル ONEBYESU

シートポスト ONEBYESU

バーテープ DIXNA

サングラス adidas eye wear

サドル fi' zi:k

シューズ fi' zi:k

タイヤ challenge

サイクルウェア pearl izumi

コンプレッション 2XU

自転車ケミカル **HOLMENKOL**

カイロプラティック 日本カイロプラティックセンター大船

セルフボディケア用品 セルフボディケアジャパン

輸行バック Ostrich